

## 宮川宗弘先生追悼号によせて

宮川先生は一九八六年四月二三日に六一歳で急逝されました。先生は三〇年の長きにわたって立教大学経済学部に在職され、大学ならびに学部の発展のために御尽力下さいました。私たちは、その突然の訃報に接し、かつて経験したことの無い孤独感と悲しみに包まれていきます。立教大学経済学研究会は、ここにつつしんで本号を先生を追悼する記念号とさせていただきます。

宮川先生は、一九四八年に東京工業大学を卒業され、東京工大助手、講師を勤められた後、一九五六年に立教大学経済学部就任されました。その後、一九八二年まで経済学部において経営管理論、ゼミナール、経済学、その他の講義を担当され、学部学生の教育に情熱を傾けられました。また大学院においては、生産管理論、経営管理論を担当され、多くの優秀な研究者を育てられました。

先生は、一九六九年に経営学科長になられ、教務主任として教務関係の仕事をなさいました。この年の五月から大争論がはじまり、紛争解決に尽力され、さらに一九七〇年四月からは経済学部長、大学院経済学研究所委員長になられ、経済学部の代表者として、学部のみならず立教大学の運営にあたられました。最も困難な時期に、先生は教授会の期待と信頼を一身に担い、状況に対する的確な判断と安易な妥協を許さぬ毅然とした姿勢をもって事に処せられ、経済学部は大過なく紛争の嵐をのりきることができました。先生は、一九七一年度から七十七年度にかけて、また一九八〇年度と計八年間、大学院の主任を勤められ、大学院の充実、発展のために貢献して下さいました。とくに一九七七年度には博士課程主任として、大学院設置基準の制定、公布にともなう新制の大学院の構想を具体化するため

立教大学の大学院学則、学位規則等の改正にたずさわられました。先生は、さらに各種の学部、大学の委員会に参加されましたが、工学士であられる先生はコンピュータの導入、管理、運営については、経済学部にとって欠くことのできない方でした。

また、学外でも慶応義塾大学をはじめいくつかの大学で講義を担当されるかたわら、企業経済研究会、中小企業研究センターでの御活躍で、多くの後進を育てられ、共同研究の進展に御尽力下さいました。

宮川先生は東京工業大学で工業経営、応用化学を専攻されました。その特異な分析を経営学研究に活かされ、生産技術、管理組織の問題を経済全体との関連のもとに分析されました。先生が研究活動をスタートされた第二次世界大戦後でもない時期には、わが国の経営学界は、従来からの伝統的なドイツ流の経営経済学としての研究と、戦後いち早く導入された経営管理論、経営組織論を中心とする研究とが相対する形で展開されていきました。こうした状況のなかで、宮川先生は石油化学工業を中心とする生産技術、管理組織の問題を、経営経済学の体系のなかでどのように位置づけるかという、きわめてスケールの大きい方法的課題を追求され、経営管理論研究において新たな境地を開かれました。先生の独創的な論文、著書は学界で高い評価を受けているところです。先生の経営管理論についての基本的な体系は、最後の御執筆となりました『経営管理基礎論』（宮川宗弘編著、日本評論社、一九八六年）の叙述に端的に表現されています。

宮川先生は、いろいろなことに精通されており多趣味の方でした。大学在学中には学生新聞に興味をもたれその編集にたずさわられたとのこと。また、焼物の話をよくなさっており、日本の陶磁器だけでなく、ヨーロッパのものにまで評価されていました。ヨーロッパに海外留学された折には各地の窯を实地に見聞されて、そのお話はつきる

ことがありませんでした。その他、オーケストラなかでもフルートの話、全国各地で賞味された食べ物、飲み物の話、さらに、御自分の幼少の頃の東京での生活をまじえて話される古典落語の話など、それぞれが私たちを、一つの世界へと導いて下さいました。また、先生は同僚、後輩、学生にはやさしく、御自分には厳しく、くり返し、くり返し思考をかさねられていました。私が先生に始めてお会いしたのは二三年前にゼミナールに参加させていただいた時ですが、その頃、先生はいつも少し首をかしげられて、考え込まれながらゼミ室に向って歩いてこられる姿を見かけました。私は、先生の物事に真剣に取り組まれるその姿に深く感激したことを忘れることができません。「親の背をみて子は育つ」とよく言われますが、私も先生のお姿をみて、微力ながら努力してきました。

高い理想を掲げ、その達成に向かって御尽力されていた先生には、まだまだ残された御仕事が多かったであろうと拝察いたします。先生の示された御努力の姿勢に学びつつ、先生の掲げられた理想に一步でも近づくよう奮闘することが、残された同僚、後輩一同の責務であると、想いを新たにしています。

宮川先生の御冥福を心から御祈りします。

一九八六年一二月

経済学部長 大 橋 英 五